

# 組合の野丁場対策に期待すること

全建総連書記次長 田口正俊

## 職種別結集をすすめる

### 専門工事業と連携していく

10月17・18日を中心第70回大手建設・住宅企業交渉を取り組んでいます。交渉に先立ち、10月3日、日本教育会館で企業交渉団会議を開催しました。当日行なわれた全建総連の田口正俊書記次長の講演を紹介し、田口書記次長は野丁場対策が重要だと強調。対策の重点を話しました。(文責・見出しとも編集部)

建設キャリアアップシステムが話題になっていますが、これは急に天から降ってきたものではないのです。197



田口さん  
キャリアアップシステムは登録されて本人



新国立競技場現場前での宣伝(2019年7月24日)

コンにとても都合がいいのです。

プル化構想は、当時建設ラッシュが起ることで労働力が足りなくなる、プル化しないといけない、技能者が将来的に枯渇すると、その点では産業の現状に対して正しい認識をしていました。全建総連はプル化構想の前身は一定評価しましたが、反対の態度をとりました。それは正しかったと思います。プル化

#### プル化は雇用を構想

プル化構想は何を構想していたのか。技能労働者の常

用化の促進です。常用化の意味は雇用と捉えた方がいい。そして登録した労働者のため賃金・雇用条件等の基準を定めて、これを保証すると日建連の30年史に書かれています。こういうことかという

### 生産体制や法律を理解し

## 職別の運動論構築へ

では全建総連本部はそのために何をしてくれるのかと言われると、これだというのは出せませんが、今いろいろな組合で職種の集まりが見直されてやっています。それは正しい方向だと思えます。Unionは職種で結集するものです。日本の労働組合は連合に見られるように企業組合が主流ですが、企業組合は労働者の結集を阻害する形態で、世界的には労働組合と認

#### 同職種の情報交換が必要

そのためには、同じ職種で働いている人たちが現場でいろいろな情報交換をして

と、建設生産の最終工程にある技能労働者の賃金・雇用条件を、それぞれの地区の職種ごとの技能ランクに応じて基準賃金を定めて保証しようと

### 管理の精度上がり圧力強化

## 真剣な対策求められる

あるセネコンでは顔認証にして、現場に入るときにスマホを持たせて誰がどこで作業しているのか全部分かるよう

し、同時に技能労働者の賃金を固定し、これ以上下がらないように、資材並みの変動相場からの脱却を図ろうとした。そういう試みでした。

全建総連の賃金運動のあり方について大きく考えさせられる内容になっています。その点でプル化構想を振り返って見る必要があります。

#### 現場の支援強化が重要

そういう困難な条件の中で前進しているというのは、現場の組合員のがんばりです。圧力を受けながらも、オリンピック施設の問題で発信していただいた。そのおかげで全建総連の書記長がBWI、あるいはILO、IOCまで行き、報告ができるようになり、報告ができるようになり、組合の仲間の活動を支えていく、そういう支援体制をもっと強化していかなくてはならない。強化してくれている、本気になってやろうとしているということが野丁場の現場で働いている方、組合員の方に実際にもっと伝わっていくと、もっと結集力が強まっていくのではないかと



新橋駅前でのイエローアクション(2019年2月6日)

本格的に野丁場対策に着手して現場に労働組合をつくらうとすれば、どういふものが必ずやなければならないのか。これは以前から言われていることですが、それなりの資金と人材を投入しないといけない。職種の班とか職種支部を設置してみるとか、専属の書記、専属の役員、専属の行動

現場で起っていることがどういう意味合いなのか。向こうが言ったときにその場で組合員が分からないといけない。そういうものを職種集まりのときに保証していくことが大事だと思います。

### 集まりで権利を認識

#### 専属体制で労働組合機能を

野丁場対策に着手して現場に労働組合をつくらうとすれば、どういふものが必ずやなければならないのか。これは以前から言われていることですが、それなりの資金と人材を投入しないといけない。職種の班とか職種支部を設置してみるとか、専属の書記、専属の役員、専属の行動

#### 資格を取ってリーダー育成

それと一つは、1次下請業者への要請行動です。1次の人たちには一番情報が集まっていますが、元請にはなかなか立ち向かえない。非常に矛盾を感じている。業界紙には専門工事業の人の記事が出ますが、元請の前では何も言えない。お互いに助け合う

こと、1次の専門工事業のみならずと手を携えていくということが非常に大事です。あとは現場のリーダーの育成です。資格をしっかりと取っていく。資格を取るために研修をして技能を高め、レベルを高めていくことが非常に大事で、今まで以上に一人ひとりの組合員に対してしっかりと保証してやる。そういう新しい技術活動にこれから踏み込んでいくことが大事です。技能の高い組合員が増えれば増えるほど、その人たちが現場で影響力を発揮できます。若い人がそういう人についてくるわけですから、知識と技能は力になっていきます。